約7割が「女性のためのコミュニティ」に好意的

「産業資源循環業界の女性コミュニティ構築のためのアンケート」を実施

全産連女性部
協議会準備会

全国産業資源循環連合会女性部協議会設立に際して同協議会設立準備会は、全国の廃棄物処理、資源循環業に従事する女性を対象にアンケート調査を実施した。578人から得た回答結果では、約7割が「女性たちのためのコミュニティができたらいいと思う」と回答しており、この結果が全国女性部協議会設立の動きを加速させることにつながった。情報発信の内容については、「職場環境整備に関すること」などを求める声が多く、イベント参加については「リアル・オンライン両方があれば状況に応じて」の回答が半数を占める一方で、「現状参加は難しい」との回答が3割に上るなど、女性ならではの悩みを抱える人が多く存在することが改めて分かる結果となった。アンケート結果の概要を紹介する。

昨年６月に本誌に掲載した女性部会座談会。これをきっかけに全国女性部会設立に向け始動した

情報交換や悩みごとの相談など期待

アンケートは4月18日～5月25日の約1カ月、全国47都道府県の産業資源循環協会（産業廃棄物協会）会員企業に所属する女性の経営者、管理職および一般社員を対象にウェブ上で実施。578人から回答を得た。同じ業界で働く女性に限定したコミュニティの創設について、肯定的な意見として女性ならではの悩み事や働き方などの意見交換を望む声が多かった反面、否定的な意見では、時間的な余裕がないという意見が多くあった。しかしコミュニティは必要だと思わないと回答している人も、実務に必要な情報交換や学びの機会は得たいという意見が多かったことから、女性のためのコミュニティ構築は業界のイメージアップに貢献できると準備会メンバーは判断した。

回答者の立場の内訳は、経営者14%、管理職19%、一般社員67%となった。経営者の意識調査なども他でも行われているが、資源循環業の一般女性社員へのアンケートはこれまであまり行われておらず、そうした一般社員からも多くの回答を得られた貴重なアンケートとなった。管理職・一般社員の担当業務の内訳は、事務79%、営業10%、作業現場7%となっている。

「産業資源循環業界で働く女性たちのためのコミュニティができたらいいと思いますか」の問いでは、「とても思う」が10%、「思う」が57%で、肯定的な意見が67%を占めた。「とても思う」「思う」の主な理由は以下の通り。

▼業界内の情報交換、同業ならではの話ができるため

▼情報共有や女性ならではの観点で産廃業界を盛り上げるきっかけとなれば良いと思う

▼産業資源循環業というつながりで働く女性達と交流する機会はなかなかないので、参加してみたい

▼女性にしかわからない働きにくさを話し合い社会に理解を求めていきたい

▼そもそも産廃業界に従事する女性が関わり合う場が今まではほとんどなかったから

▼理解を得て出席できる環境づくりの第一歩として、コミュニティが立ち上がるのはとても嬉しい

▼同じ業界で同じ女性という立場で、いろいろと情報交換ができ、勉強になる事が多いと思う

▼産廃業界で働く女性の割合は極めて少ない中で、抱えている問題、提案など女性同士なら話やすい、理解しあえる部分は多いと思う

▼まだまだ男性が多い業界において、女性がどのように活躍できるのか、また業界の男性側へワーク・ライフバランスをどのように働きかけたらいいかなど、意見交換をしたい

▼男性が多いので、いろいろ相談できる窓口がほしい

一方で、「思わない」との回答は33%だった。「思わない」の主な理由は以下の通り。

▼女性だけに括る必要性を感じないため

▼時間がないから

▼日々の仕事に追われているため。

▼コミュニケーションが苦手だから

▼私たちが意見交換しても、結局働き方改革には到底つながらない、会社でそのような立場にないから

▼興味はあるが人見知りをしてしまう

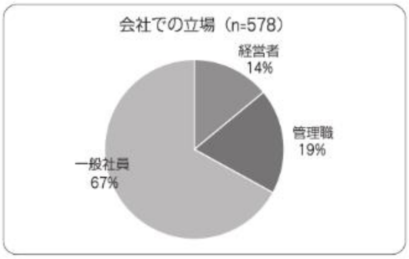
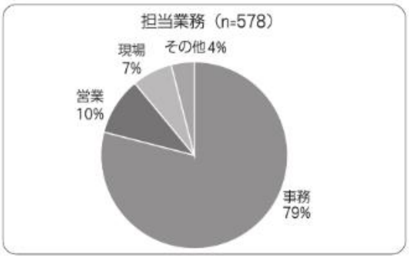
▼業務時間外は家庭があるので行かれない

▼面倒臭い

▼私のような事務が気軽に参加できるとは思えない

▼難しいことかもしれないが、同じ地位のものの意見交換ではなく、また業界の話題に限らず垣根を超えて参加しやすい交流できる場を本当に作ることができるのであれば、参加してみたい

情報発信について、「どんな情報が知りたいですか、どのような情報発信があったらうれしいですか」の問いでは、「職場環境整備に関すること」が24%と最も多く、次いで「業務に役立つ知識・技術・情報」23%、「ワーク・ライフバランスに関すること」20%などとなっている。

イベントの参加方法について、「リアルとオンラインとどちらが参加しやすいですか」の問いでは、「両方あれば状況に応じて」が48%と約半数を占めたが、「参加したいが現状は難しい」の回答も31%にのぼった。「オンライン参加したい」と「リアル参加したい」はそれぞれ11%、10%とほぼ同数だった。「参加が難しい」理由としては、「時間がない」37%、「業務中の参加が難しい」31%と、時間や業務の制約によるも